

セーフティー・サンタラン in 知多半島

美浜町役場 × 愛知道路コンセプション株式会社

取組概要

愛知県道路公社の有料道路コンセプション事業を運営している当社が、愛知県警、知多半島内自治体と連携し、交通安全と地域PRイベントを3か年（2017-2019年12月）開催した。交通死亡事故が全国ワーストに上がる愛知県内で「子供から高齢者まで楽しめる交通安全体験学習」を実施し、2019年には全国ワーストを脱却した。また冬期イベントを通じ美浜、南知多町への人流を生み、地域活性化に効果をおげた。



県警とサントライダーの交通安全パレード



メイン会場や立寄り地でのイベント風景

基本情報

代表地方公共団体	美浜町役場
代表民間団体	愛知道路コンセプション株式会社
他の連携団体等	美浜町観光協会、南知多町観光協会、知多半島観光圏協議会、中日新聞社、愛知県、愛知県警、愛知県道路公社、自衛隊愛知地方協力本部、美浜町商工会、愛知オートバイ事業協同組合、日本福祉大学、協賛企業40数社ほか
カテゴリ	観光客の誘致／地域振興・交流／地域情報・行政情報発信
事業費	1350万円
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2019年4月～2019年12月※企画・準備期間8か月（過去2年開催実績あり）

取組内容



美浜町総合公園集合イベント会場



サンタパレードの走行ルートMAP

この取組で解決した課題	今回取り組んだ地域課題は、以下の2点。 1. 知多半島は春から秋にかけて海のレジャー等で県内外から沢山の人が訪れる反面、冬期は閑散期になるため、各地域に人流を生むことが課題となっていた。本取組による冬期の賑わい創出により知多半島広域における人流促進に一定の成果を生むことができた。 2. 愛知県は交通死亡事故数が例年全国上位（当企画の初年度開催時（2017年）14年連続ワースト1、2018年度も同様）であり、知多半島地域での冬期飲酒運転や夕暮れ時に発生する事故を減らすことが課題であった。有料道路におけるあおり運転やスマホながら運転による事故防止の課題もあり、本取組により交通安全への啓発を実行し、2019年度の交通死亡事故件数全国ワーストからの脱局に一助する効果が期待できた。
解決に向けた手法	1. 美浜町と連携して総合公園を会場として、イベント（12月一週目の日曜日）を開催した。名古屋市内への広告、マスコミによる報道等イベント告知をすることで、半島外より知多半島へ訪れるきっかけ（人流）を作った。 2. 愛知オートバイ事業協同組合との連携により、参加を募集（9月-10月）し、交通安全パレードを実施した。立ち寄り先として、5つの観光スポットを設定し（5班編成：15-16台／班程度）分散して半島内広域を巡ることで、知多半島全体への賑わい創出と交通安全啓発を実施した。 3. 商業施設や観光施設等と連携し、サントライダーがお菓子や交通安全グッズをプレゼントするイベント（当日のみ）を実施し、賑わい創出と交通安全啓発を実施した。 4. 一般参加者がサンタの衣装をまとい、県警パトカーや自衛隊MPとともに走行するパレードを実施することで、地元住民や観光客へ冬期交通安全をPRし、参加者自身にも交通安全への再認識を印象付けた。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知道路コンセッション株式会社：主催、企画、資金拠出、協賛依頼、行政・県警との調整 ・観光協会：各種許可、駐車場誘導整理、商工会青年部連携等 ・知多半島自治体：立寄り地選定・協力依頼、行政PR・着ぐるみ出演 ・愛知県警：パトカー・白バイ隊協力、VRによる事故発生疑似体験、パトカー展示と撮影、交通安全指導 ・愛知オートバイ事業協同組合：パレード先導、走行安全指揮・JAF：シートベルト衝突体感
地域関係者との連携方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集客性の高い施設（商業・観光施設）を交通安全と地域活性化のために、企画主旨・内容を説明しパレード立寄り地として協力を得た。 2. 商工会青年部を「子供たちへのものづくり等の体験」のために、職業体験ブースの出店を依頼して協力理解を得た。 3. 地域飲食店舗やキッチンカー運営者を来場者への飲食販売・提供とチャリティ募金への協力のために、スタッフ（約200人分）弁当を注文して出店協力を得た。
資金調達方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主催者事業費からの拠出（地域活性化への取組事業費）70% 2. 企業協賛金30%
資金調達方法の補足	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業協賛依頼は、スタッフ4名で訪問に約2か月ほど要した。企画実施内容を同時に進行する中で訪問・依頼であったため、最終確定していない段階での企画説明で企業から理解を得るのは、難しかった。 2. 協賛金の金額や内容を数パターン用意し、大手企業だけでなく地元中小企業や個店も協賛参加できるよう工夫した。
事業推進上の課題・工夫	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「①毎月関係者を集めた定例会を実施、②各分担の取り決めや進捗確認、③課題の洗い出しや共有」を行うことで周知や確認漏れがないよう進める工夫をした。 2. 地元住民への周知や商業・観光施設の使用申請と許可が円滑に行うために地元自治体関係先との連携・交流を重ねる工夫をした。 3. 予算に限りがある中でも子供たちに喜んでもらえるよう、サンタライダーのプレゼント品は、バラエティに富んだ協賛企業ノベルティ（協賛依頼先への訪問時に説得）や地元有名菓子店から提供いただいたものを活用した。 4. 大量に用意したプレゼント品のラッピングや梱包作業を「地域の就労支援施設5箇所」へ業務委託することで、施設就労者の就労意欲（やりがい）と雇用の創出に繋がるよう工夫した。

担当者のコメント

半島を横断する道路を運営している会社として当社がリーダーシップをとり、各市町間の連携を依頼することで「知多半島全体」での活性化活動につなげることが出来たことが大きな成果だと感じている。限られた予算でのイベント実施は、イベント会社に一括委託する余裕がなく、労力も時間も必要になるが、長期的に自治体や地元観光施設等多くの関係者と連携することで、信頼感やコミュニケーションも深められ、本取組だけでなく、その他別企画のイベント活動においても同様な課題解決を目的に協力・支援を得て円滑に進めることが出来ている。

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 地域の課題である「冬期にレジャーがなく観光客が来ない（閑散期）」という観点から、12月のクリスマスシーズンに合わせたファミリー向けイベントを実施することで、多くの賑わいを創出した。 交通死亡事故数全国上位という課題において、多くの人に交通安全活動を楽しんでもらいながら啓蒙できる参加型イベントを実現した。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 知多半島10市町の自治体や観光協会だけでなく、愛知県、愛知県警や地元大学（日本福祉大学）、観光施設（半田赤レンガ建物、MIM）、商業施設（JAびんきの郷、イオンモール常滑）など多様なステークホルダーと連携、協力を得た。</p> <p>③モデル性・波及性 「冬期の活性化」と地域の課題（今回は「交通安全」）を絡ませたクリスマスのイベントとして、サンタの衣装をまとい、交通安全と賑わい創出のイベント活動を行うことは、どの地域でも可能である。メイン会場は総合公園を活用しており、どの地域でも規模的に適応できる。季節（春夏秋冬）毎に「スプリングサンタラン（桜色）」、「サマーサンタラン（青色）」、「オータムサンタラン（オレンジ）」等の交通安全・パレードイベントへの発展モデルも可能である。</p>
----------------	--